

第18回 県政ひざづめ談議結果概要

開催日時：平成21年1月21日 16：30～

開催場所：富士吉田市立富士山レーダードーム館

〔司会〕

皆様、本日はお忙しいところをお集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまから知事対話の『県政ひざづめ談議』を始めたいと思います。

本日の進行役を務めます県の広聴広報課長、田中でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、始めに横内知事からあいさつをお願いいたします。

〔知事〕

皆さん、こんにちは。

ちょっと風邪をひいているものですからお聞き苦しいかもしれませんがご了承をいただきたいと思います。

今日はそれぞれお忙しい中をこうしてお集まりをいただきまして本当にありがとうございました。皆様方、山小屋の経営者の皆様方には、富士山吉田口環境保全協議会を設立されて、富士山の環境保全のために長年ご尽力をいただいているわけであります。環境トイレの整備や、清掃活動といった富士山を大切にし、環境を良くし、より美しくしていく活動に取り組んでおられまして、非常に顕著な功績を残しておられるというふうに思うわけでありますが、井上会長さんはじめ、皆様方の長年のご努力に心から敬意を表したいと思います。

県としてはそういったご功績を高く評価し、昨年11月に県政功績者団体表彰をさせていただいたわけであります。皆様方のそういったご努力というものは、県民から非常に高い評価を受けて、そういう点は自信を持っていただいているのではないかとこのように思っているわけであります。

皆様方のそういったご努力もあり、また世界文化遺産への動きもあり、全国民の間に富士山への注目度は非常に高まってきているわけであります。また、富士山登山客も過去最高を記録するというような状況になって参りました。まあ、そういうことは大変素晴らしいことではありますが、同時にそれであればこそ我々山梨県民は、この富士山を日本国民共通の宝物として、財産としてしっかりと保全をしながら、同時にまたその恵みを受けていくということではなければならないというふうに思っているわけであります。

そのために、県としても色々な活動をしているところでありますけれども、皆様方は日常、富士山にかかわっておられるお立場としていろんなご意見があるかと思しますので、今日は普段お考えになっていることを遠慮なく色々とお話をいただきたいと思っております。

まあ、この『ひざづめ談議』というのは、もうざっくばらんに何でも話していただくという会でありますので、どうか一つ普段お考えになっていることを腹藏なくお話を賜ればありがたいというふうに思います。本日は誠にありがとうございました。

〔司会〕

本日出席しております県と市の職員をご紹介します。

まず、山岳の観光振興、それから環境保全などを担当しております山梨県観光部の山下観光資源課長です。

次に、スバルラインなどの道路整備に関する計画策定とか調査等を担当しております小池道路企画室長です。

それから、登山道など、道路管理を担当しております小島道路管理課長でございます。

富士山に関する観光等、環境施策などを進めております富士吉田市の山崎富士山課長でございます。

富士山吉田口旅館組合の山小屋経営者で構成する富士山吉田口環境保全推進協議会の皆様には、日頃富士山の環境保全などをご尽力いただきまして大変ありがとうございます。本日は美しい富士山を将来にわたり守っていく、それから持続可能な富士山観光の振興を図っていくための方策などについて対話を進めていきたいと思っております。是非忌憚のないご意見をよろしく願います。

それでは発言をお願いいたします。

〔参加者〕

本日はお忙しいところ私たち協議会との『ひざづめ談議』の場を設けていただきありがとうございます。また、昨年11月18日の富士山憲章制定10周年フォーラムでは功労者表彰、さらに11月20日には県政功績者表彰をしていただき誠にありがとうございます。今回の表彰はソフト面とハード面の改善、特に山梨県が強力に後押しして下さったトイレの改善があったからだと思います。

それでは今日のテーマである持続可能な富士山観光を目指していくために、これからの富士山をどうしたらいいか、幾つかの提案をさせていただきます。どの提案も登山者の安全・安心・快適性を確保し、そういうことをしなければならないということと結び付いております。

まず一番目に、吉田大沢の防護壁について。二番目はスバルラインの交通規制の件について。三番目は富士山山開きの日程について。四番目は救護所の件について。五番目は富士山の大渋滞の件について。これは、スバルラインと登山道の大渋滞ということです。以上、5点について若い人たちから建設的な話をいたしたいと思っておりますが、後で、知事のご意見等をお伺いさせていただければと思っております。今日はよろしく願います。

〔参加者〕

私からは、落石止めの防護壁のことについてちょっとお話をさせていただきたいと思っております。

登下山道整備については山梨県から多大なるご理解をいただき、厳しい条件の作業にもかかわらず、登山者の安全と快適性を確保するために毎年ご尽力いただき、誠にありがとうございます。

その一つとして、3,400メートル付近に吉田大沢からの落石防止のために防護壁（導流堤）を設置していただいておりますが、お陰様でこれまで発生した落石も、登山者に被害を及ぼすことなく今日まで来ました。しかしそれは、昭和55年の落石以後設置していただいたもので、設置してからもう20年以上の年数が経っております。今は、防護壁の後ろに砂がたまってしまって、防護壁の役割を果たしていないのが現状なんですよ。

去年の8月18日、9月16日と、私が見ただけでもその防護壁を飛び越えてしまうような落石が起きており、夜中にも落石の音を何度か聞いております。一步間違えれば恐らく大惨事になることは間違いないんです。登山者の安全確保のため、防護壁の改良をお願いしたいと思っております。

お陰様で登山者数も毎年増加しており、私たち安全・安心の登山の環境に努めておりますが、民間レベルではなかなかできないようなことがたくさんありますので、県のほうには、観光資源の安全をさらに推進していくための環境整備を是非ともよろしく願いたいと思います。

〔知事〕

この防護壁の改修、毎年1億円くらい掛けて色々やっているんですが、それは今やっている場所とはまた別の所ということでしょうかね。

〔参加者〕

ちょっと付け加えますけれども、防護壁があるじゃないですか。そうするとその後ろに土砂がたまっちゃうんですよね。ここの所の土砂をもう少し取ってもらいたいということと、この防護壁をもう少し高く、20センチくらいちょっと伸ばしてもらいたい。

〔参加者〕

知事さん、今こちらのほうにその現状の画像がありますので、これを見ていただければ、どういうことだということが分かります。ちょっと電気を落としていただきたい・

落石写真を映写

〔参加者〕

山小屋の倉庫を一昨年造ったんですが、その倉庫の中に、その防護壁を飛び越えて入ってきた石なんですよ、これは。倉庫ですからお客さんがいるということはないんですが、アルバイトとか、まあ私にしても足りない物を取りに行った時にこの石が落ちてきたら、大変なことになってしまうかと思うんです。

次のこれは、今年新たに設置していただいた防護壁にぶつかった跡なんですけれど、私、素人考えですけど、これをもう少し高くしてもらえたりしてもらえれば・・・これを飛び越えた石もあり、登山道のほうに行ってしまうので、方向が悪ければ・

・。まあこのような状況です。

〔参加者〕

これは9月の後半、20日過ぎの夜間に落ちたものだと思います。今年行っている工事がなかったから良かったんですが、もし工事でもしていれば、また作業員にも被害が及んだと思いますし、シーズン中の大勢登山客のいる所に飛び込んだら大変なことになると思うんですよ。

〔知事〕

なるほどね。どうですか。

〔小島道路管理課長〕

4箇所新たに増やすことで、全体としてはやっておりますので、それらを順次整備したり、また延長工事等もまた継続しておりますので、今すぐというわけではございませんけれども、順々に改修等をしていきたいと考えております。

〔参加者〕

是非ともよろしく願いいたします。

〔知事〕

その場所は分かっているわけですね。

〔小島道路管理課長〕

今全部で20箇所設置してあると思っているんですけども、4箇所を増やすということで、設置場所は図上では分かっておりますので、また必要があれば現地のほうも調査させていただきます。

〔知事〕

なるほどね。土を取ったり、あるいは防護壁を高めたりというのはどうなんですか。

〔小島道路管理課長〕

前の物よりももっと頑丈に貼り付けをしたり、延長を伸ばしたりしますので、順々に整備は進んでいくと思っています。

〔知事〕

そうですか。まあ、分かりました。じゃあこれは急ぐようにしましょう。

〔参加者〕

よろしく願いします。

〔参加者〕

次はスバルラインの交通規制について・・・。

〔参加者〕

昨今の富士山ブームで大変賑わっていることは大変ありがたい次第でございます。これもひとえに国、県での登下山道の整備、トイレ補助金制度でのトイレ改築並びに山小屋での就寝方法などを改善した結果が奏功していると思っている次第です。

昨年は山梨県側だけでも24万7千人と、史上最高の登山者を迎え、本来のキャパシティがオーバーな状態になってしまったことで、登山者の受け入れを制限しなくてはならないのではないかと考えております。

そこで、私ども旅館組合の立場といたしまして、富士スバルラインのマイカー規制を、7月、8月の期間は毎週末、金・土・日での規制とするよう、富士スバルライン自動車利用適正化連絡協議会の席上でお願いしておりますが、道路公社の回答は、収入が減るとか、規制期間中の駐車場の確保が困難とのことでした。

昨年は、登山者が比較的集中しない8月9日から8月18日並びに23日、24日にマイカー規制が実施されましたが、登山道の渋滞緩和へは余り効果がなかったように思います。今年も8月7日から8月18日の12日間の、昨年度と同じような月日のところの規制となっております。

さらに昨年9月は、富士スバルラインの24時間営業を試みで実施いたしました。ご存知のとおり富士山の登山シーズンは7月、8月であります。9月は富士登山の人気の高さから、中旬頃までは山小屋も営業をしておりますが、万全な体制での営業ではありません。

加えて六合目の安全指導センター、七合目、八合目にある救護所が開設期間を終了しているような状況下では、登山者の安全対策が確保されていない状態となっております。

富士吉田市長の入山料発言や、昨年暮れの富士山鉄道構想など、今富士登山のあり方を抜本的に見直す時期が来ていると私は思っております。

そこで、富士スバルラインの通年でのマイカー規制の実施を提案をいたします。これ以上富士山に手を加えることは、富士山に申し訳ないということも思っておりますので・・・。

駐車場の確保については、富士スバルラインの周辺駐車場など、国、県の所有、または市有地などを駐車場として利用できないのでしょうか。

知事さんも参加していただきましたが、昨年11月18日、富士急ハイランドリゾートホテルで行われた富士山憲章制定10周年フォーラムで、野口健さんは「夜中の登山は富士山しかない」と発言されました。また24時間営業の山は世界中どこを探しても富士山のみ」とも発言をされておりました。

富士スバルラインの通年でのマイカー規制をできるだけ早い時期に実施していただき、安全で快適な登山を確保し、何度も訪れてみたい魅力的な大切な財産として、日本のシンボルとして、またふさわしい観光立県山梨、富士山観光としての将来を考えていただ

きたいと思っております。私どもも、今後、孫子の代まで引継いでいきたいと思っております。知事さんともお会いでき、絶好の機会だと思っておりますので、是非よろしくお願いいたします。

〔知事〕

一年を通してマイカー規制をするということであるわけですね。それは当然のことながら登山客は減りますから、まあ山小屋経営ということからすればマイナスになるわけですが、しかし、そのマイナスは甘受しても、登山者の安全と富士山の保全のためにそれは必要だとおっしゃるのは大変立派な姿勢だと思うわけではありますが・・・。

〔参加者〕

リスクを背負うけれどもこういうふうにする、そういうふうにしたほうがどうだということで、皆さんも納得してくれているようですので、それはもう覚悟の上で、富士山をいつまでも守っていくにはそういうことも必要じゃないかなと思います。

〔参加者〕

ちょっとここでスバルラインの混雑状況を見ていただきたいと思いまので、よろしくお願いします。

スバルライン渋滞映像を映写

〔参加者〕

これは昨年の8月3日ですね。スバルラインから3キロ下ぐらいのドギーパークというのがある辺りですけれども、もうそこまで料金所からずっと渋滞がこのように続いていて、もう非常にノロノロとした、まあ進まないような状態でした。この後ですが、そういったノロノロの状況ですので、しばらく渋滞に並んだけれども、もういい加減にいいやということで、せっかくの富士山の観光をせずにこうやって帰ってしまう車も多数ある状況です。

これは、この辺りでようやく料金所なんですけれども、料金所の所に来ますと警備員さんがいて、そしてこの先も混んでいますよ、五合目の駐車場も満車で、というふうに説明をすると、まあ諦めて帰っていく車もあるような状態ですね。

さらに、このスバルラインに入ってから、このようにずっと車が・・・、これはちょっと関係車両ということで通してもらいながら映像を撮ったんですが、こうやってずっとストップ状態が続いていると。これが8月3日です。

昨年一番混んだのは恐らく海の日3連休だったんですが、その頃はもっとひどかったというような話も聞いています。特に海の日夜間などは駐車場も満車ですので、路上駐車をいたる所にして、ひどいのは、ヘアピンカーブのど真ん中というか、一番カーブのきつい所に止めている車もあったりして、悲惨な状況になっていたというようなことも聞いています。スバルラインの映像は以上です。

〔知事〕

なるほどね。富士吉田市長が入山料というようなことをおっしゃってですね、それは私も可能性としては大いにあるんじゃないかなと思っているんです。この間市長が話をしていましたけども、静岡のほうの人たちにそのことを話したら、いやそれは山梨でやって下さいと、私のほうはやりませんと。静岡側は少ないんだから、山梨がやってくれれば助かりますと、こう言っているんですけれどもね。

山梨のほう規制を強化しても、静岡のほうが尻抜けの状態であれば、結局規制した期間は、静岡に行こうやとこういうことで、そちらに行くばかりじゃなかろうかなという感じもしましてね。そういうことが多少気にはなるんですよ。

まあそれはともかくとしても、マイカー規制を強化をしていかないと、こういう渋滞が続くものですから、これはうまくはないということで、今年21年のシーズンには間に合わないけれども、来年のシーズンまでには駐車場をしっかりと確保して、マイカー規制の期間を長くするというをやろうと思っております。もちろん、道路公社の収入減だとか、そんなことは言ってもらえない話でしてね、そんなことは余り気にすることはないので、要は駐車場が便利な所にしっかりと確保できれば、あとはバス輸送でやっていくということにしたいというふうに思っているわけなんですけど・・・。

ただ、聞いたところによりますと、マイカーを規制をしても余り登山客とは関係がないんじゃないかということをするんですね。というのは、マイカーを規制しても、ツアーバスみたいなものはちょっと規制することはできないということですので、結局は、ツアーバスでどーっと来て、どーっと登って、また下りてくるということになるわけですから、登山客の数というのは余り変わらないんじゃないですかねということをするわけですね。どうなんでしょうかね、そういうことは。

〔参加者〕

よろしいでしょうか。

山小屋も箱が決まっているわけですね。ツアーバスは、私どもが受け入れをしたお客さんのみが来るわけですね。それ以外は泊まらないで来るオールナイト客とか、個人で来るマイカーの客が時間を調節して、お金を掛けないためにそのまま直接登るとかといった人達になります。

箱がもう決まっているから新たな受け入れをしないと、互い違いでは寝かさないとか、マイカー規制などをすればお客さんは来れないですとか、そういう受け入れ体制にすれば、結論は出てくると思うんですよ。

泊まらないというお客さんはどうすることもできませんが、箱が決まっているものに、それ以上の受け入れを山小屋はしませんから、結論はおのずと出てくるんじゃないかというような気がしますけれども。

〔参加者〕

まあそれはいっぺんにここで解決できる問題ではないし、道路公社のこともありますから、ここですぐに即答ということにはできないので・・・。

〔知事〕

静岡のほうは、そうやって山梨のほう色々やってくれることはウェルカムだよと、俺らのほうが増えるからというふうに言っているようですが・・・我々はそういうことじゃなくて、やっぱりお客さんに快適にやってもらうとが必要なんだから、静岡のことなんか、そう言っているからといって、いいんだと。こういうことでしょうかね。

〔参加者〕

山梨県側は、マイカー規制を暇の時期にやるわけじゃないですか。それをやっぱり海の日とか、そういう7月の末の金・土とか、8月の金・土とかというふうにしてもらえれば、それだけでも大分違うんじゃないかなと思いますね。いっぺんに何もかも全部が全部ということではなくて、静岡と同一歩調を・・・。

〔知事〕

静岡とやっぱり同一歩調を取るように話をしたいということですかね。

〔参加者〕

そうですね、静岡は海の日を規制しているから、山梨でも海の日をやって下さいと言っているんだけど・・・。7月から8月の金・土はマイカー規制してもらいたいですけど、静岡のほうは金・土をやっているんですが、こちらは一番お客さんが少なくなってくるお盆の頃、8月の10日ぐらいからお盆の時を規制しているから、一番お客さんが多い時のマイカー規制をやっていただきたいということです。全部が全部止めちゃえということではないんですけども。

〔知事〕

それは客が多い時期になるのはそうですね、本当にそのとおりですね。これはどうなんでしょうか。

〔小池道路企画室長〕

基本的には静岡と同じようなレベルでやるということを行っているんですけども、大体知事さんが言ったように、マイカー規制のための駐車場がないということです。海の日も検討したんですけども、やっぱり駐車場確保ができなかった。

現在、駐車場を何軒か検討しているところですので、またそれが確定しましたら皆さんとお話をしながら、どういうふうに行ったらいいのかということを検討したいと思います。ちょっと今年のシーズンには間に合いませんけれども・・・。

〔参加者〕

当初マイカー規制を始められた時より、お盆集中型ではなくなってきました。正直言いまして、Uターンをするような時期にマイカー規制しても余り意味がないかなと考えております。

何とか駐車場の確保をしていただき、前に進めてもらいたいですね。

〔知事〕

駐車場を広い、便利のいい所に確保できるといいですね。

〔参加者〕

そうですね。

〔知事〕

ある人が、県有林を切ったりなどしないで、木の間に、何と言うか、よくあるじゃないですか、ネットみたいなものを敷いて、ああいう所へ入れればいいじゃないかというようなことを言っていましたけどね。何かうまい方法は・・、余り遠くじゃうまくないしね。

それから9月の話というのがあるんですね。

〔参加者〕

9月の話で、昨年からスバルラインの営業が24時間になっちゃったんですよ。それまで夜は止めていたんですが・・・。だから、9月中ぐらいまでやっている小屋が多くなりました。ただ登山者のマナーが悪くて。9月に来るお客さんは、泊まらないで外で火を燃すんですよね。注意すれば、今の人たちはすごい喧嘩腰になって、だからそれが非常に怖いので、できれば9月のスバルライン営業は、前と同じような規制に戻してもらいたいです。

〔知事〕

どうですか。

〔小池道路企画室長〕

全体的な話ですけれど、できるだけスバルラインを通してほしいという要望もあって、試験的に昨年の9月は24時間営業ということにしました。また皆様のご意見をお伺いして、もし24時間じゃなくて前みたいに午後9時とかにしてほしいというふうな意見が多ければ検討したいと思います。

〔知事〕

9月は、マナーが悪い登山客が多いんですか。

〔参加者〕

正直そういう・・。全てではないですが。

〔参加者〕

富士山の山小屋などが、7月、8月、まあ9月頭ぐらいまでしか営業していないこと

を余り調べずに来てしまう人がやはり9月には多いのです。下調べ、準備のない方の割合がそういった時期に比較的高くなると考えていただければいいかなと思いますけど・
・。

〔参加者〕

山頂の山小屋のほうの営業も終了しているんです、静岡県側のほうも。

〔知事〕

そうですか。

〔参加者〕

通常7月1日が富士山の開山ということで、県の方にも登下山道の整備にあたっていただいて大変助かっております。ですけど、ここ数年、7月1日に富士山に残雪が多いんですね。

県の関係機関の方たちの登山道整備、もちろん私たちも一致団結をしながら7月1日の山開きを目指しているんですが・・・・。

できれば、7月の1日が神事、行事的には山開きになってはいると思うんですけども、そちらのほうはまた別として、実際、事実上の登山道の開通は5日というような形に変更はできないものかなと考えております。

〔知事〕

なるほどね。この5日ぐらいにやれば大分違うものですか、残雪は。

〔参加者〕

かなり違います。

一番難しいところは、やっぱり八合目から山頂までの登下山道でとても厳しいです。下山道に関しては静岡県になってしまうんですけども、静岡県側の整備がかなり遅いという形になりますので、山梨県、静岡県のことを全体的に考えれば、7月5日ぐらいがちょうどいいんじゃないかなと思います。登山をする方々にとっても、安全・安心に登山をしていただけるんではないかなと考えています。

登山客の受け入れといったことについても、今年は金曜日、土曜日の完全予約制といったことを実施するということになっています。将来的には全日完全予約制ということも・・・・。そうすれば、安全・安心な登山に結び付いていくんではないかなと考えております。

〔知事〕

7月5日ということは、誰が決めればいいんでしょうかね。

〔参加者〕

7月1日の祭事はお宮になるでしょう。登山者のほうは市役所とか県の観光部で・・

・。

〔知事〕

登山は7月5日からにして下さいと、そういうPRをすればいいということですか。

〔参加者〕

そうですね。

〔知事〕

それは7月1日以降に登る人が出てきますね。それを止めるわけにはいかない・・・。

〔参加者〕

7月1日から4日まで個人客のお客さんは、まあそれは自由登山ですから・・・。

〔知事〕

PRをする時に、要するに皆さん登山は7月5日から何日までにして下さいと、こういうふうに言うということですよ。山小屋の予約はもう5日からしか受けませんよということですね。

〔参加者〕

7月の1日からを5日からにずらすと、下山道の管理のほうも延長していただきたいなということもあるんですけども。

〔参加者〕

安全指導センターのほうの問題もあるんじゃないか・・・。

〔知事〕

それは市のほうはどうなんでしょうかね、いいんでしょうかね。

〔山崎 富士吉田市富士山課長〕

私どものほうは一向にそれは・・・5日にずらすということは一向に構わないと・・・。

〔知事〕

しいて言うと神社さんが、おかしいじゃないかと言いませんか。

〔参加者〕

祭事は祭事でまたそのままやるから、いいじゃないですかね。

〔参加者〕

いずれ組合とすれば、7月5日からの受け入れをしていくと。今年はたまたま4日が

土曜日ですけれども、5日の日曜日から受け入れるということで決定をしました。そういうことですので、県、市の協力もお願いできればありがたいということです。

〔知事〕

ああそうですか。もうじゃあそういうふうに決めたんですね。
宣伝するだけということですね。

〔参加者〕

それと救護所とかですね、そういった所の開いている時間と言うんですかね、そういったことも見直していただいて、少し延長していただければと考えています。

〔知事〕

それはそのとおりですね。これは一回安全センターとか救護所とか、そういう関係の皆さんが集まったところで、もちろん皆さんの代表も来てもらって、こういうふうなことだから、それぞれ一つ時期を、開設の時期をずらしたりするように、また、いろんな観光PRなんかについては、もうそういうふうに日を決めてやるようにということを一回よくやってもらわなきゃいけないですね・・・。

じゃ、これはまた相談してやりましょうね。

〔参加者〕

山下（観光資源）課長さんのほうはいいんですけども、山崎（富士吉田市富士山）課長さんのほうはだいじょうぶかな・・・（笑い）。お願いします。

〔参加者〕

話をしちゃうわけですけど、1日から4日の間も登山できるように、我々山小屋の者が全員出て登山道のほうの補修にあたらうじゃないかと、こういうことで話が決まっているんです。是非まあそういうことですので、よろしくお願ひしたいと思います。

〔知事〕

そうですか。分かりました。これは一度よく関係者一回集まって相談しましょう。

〔参加者〕

よろしくお願ひ申し上げます。

〔参加者〕

七合目の救護所の必要性についてなんですが、私たちは400年間続いてきた互い違いに就寝するスタイルを廃止しました。

〔知事〕

４００年間続いてきたんですか・・・。

〔参加者〕

はい、従来の互い違いスタイルは多くの登山客を収容することにつながりますが、安全で快適な登山をしていただくために間隔を広く取り、同方向にゆっくり就寝していただき、体力の回復につなげていくことが必要です。集客の減少となりますが、長期的な視野で考えて、山梨県側の吉田口登山道１６軒全ての山小屋で実施しております。

また県にもご協力をいただきまして、全ての山小屋に環境配慮型トイレが整備されましたので、一昨年のシーズンから登山者に快適な登山を提供させていただいております。

加えましてＡＥＤ（自動体外式除細動器）を山小屋に設置し、万が一の際に備えた体制づくりも実施しております。昨年の８月７日には、平成１３年に山梨大学医学部にご協力いただき設置した八合目のボランティア医師と山小屋スタッフとの連携により、そのＡＥＤを使用して一人の尊い命が救われました。

昭和２７年から設置されている富士山七合目救護所も、八合目救護所と同様、登山者の安全確保にはなくてはならない施設でありまして、登山中の高山病や不慮のけがにも現場で迅速な医療処置が施され、登山者の安心・安全な登山に大きく寄与していると思います。

これら二つの救護所は登下山道の最適な場所に位置しておりまして、六合目の富士山安全指導センターとの位置関係も最適とっております。二つの救護所には、今まで以上に山小屋も一丸となって協力し、六合目指導センター、七、八合目の各救護所で連携を取り、より一層の登山者の完全確保に努めて参りたいと考えております。

また、現在救護所に設置しているクローラという、富士山では救護カーとして使っている小型のブルドーザーを私たちが用意して対応しているんですけども、今シーズンからは六合目の安全指導センターにも設置することで、さらに登山者の安全を確保していきたいと考えております。

六合目安全指導センターへのクローラの設置については、環境省と県観光資源課と富士吉田市のご協力をいただけると伺っております。安全確保のため、多方面からのご協力に感謝しております。

これらの取り組みは、全て登山者の安全を確保するもので、富士山を訪れるお客様に楽しい経験をしていただき、もう一度富士山を訪れていただくためのものと思っております。将来を見据え、今後もお協力を賜りたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

〔知事〕

なるほど。分かりました。

これは一応うまくいっているということですね。

〔参加者〕

では、富士山登山道の大渋滞のことで・・・。

富士山登山道渋滞映像を映写

〔参加者〕

先ほどスバルラインのほうを見ましたけれども、今度は八合目の山小屋の前あたりの映像です。この辺り、先ほど落石の写真をご覧になったかと思いますが、こんな所をこんなに大勢の人が歩いていると。頂上直下では、このような大行列になるので、いつ将棋倒しになるかもしれないぐらいな、それぐらいの状況にあります。そんなところに落石があったらひとたまりもないということなんです。

まあそういった中で登山ガイドなどは、交通誘導というか、早い人は右に行って下さい、遅い人は左とか、そういったことを要所要所で行いながら登山をすると。声を掛けて誘導することで多少流れるようになると、渋滞が解消するということにはなっているんです。

〔参加者〕

ガイドがいる間はこのようにスムーズですが、御来光の後ぐらいはツアーのガイドがみんな頂上に上がってしまいまして、この頂上直下辺りはもう誰もいなくなってしまう。そうするとロープの外側で休むような方が多発したりして、こういった人が石を落として危険な状況を生み出すということがあります。

また、御来光の後ぐらいには、山小屋に泊まらないで来たような人が後から登ってくると。夜中に登り始めた人が上がってくるんです。

そういったことでさらに渋滞が発生し、動かないというようなことも起こっているというのが現状で、ちょっと進んではしばらく止まってというようなことが起きています。

さらには下山道が分からなくて、登山道を無理やり下りていく方がいるんですけど、こういった方が石を落としたりしたら非常に危険です。

〔知事〕

ラッシュですね、これは大変なものだ。

〔参加者〕

まあ、富士山の混雑の現状というのはこんなものであるということですよ。

〔参加者〕

これが将棋倒しになった時のことを、我々は心配しているんですよ。

〔知事〕

今年はもっと混みますかね。

〔参加者〕

今年はね、まあここ2年、すごくお客さん増えたのは天気が良かったということが第一ですけども、まあやっぱりトイレと、それからやっぱり女性客が多くなりましたね。

これはもう本当にありがたいことですね。就寝方法を変えたということも女性客が増えた要因だと思いますね。ただ、将棋倒しなど、何かあった時に山小屋は対応できないので、その辺のところはちょっと心配です。

〔参加者〕

山小屋に宿泊されている方に関しては、二泊三日で昼間登るように勧めたりするなど、対策もしているんですが、やはり日帰りというか、泊まらずに来る方に関しては、こちらではコントロールのしようがないということで、スバルラインですとか、その他にどのような方法があるか分からないんですけども、何らかの対策が必要かなと思います。

〔知事〕

宿泊、二泊三日というのはどういう意味ですか。

〔参加者〕

普通ですと登山に来る方は、昼頃に五合目を出発して、そして山小屋に宿泊して、そして夜中の明け方に出発して、そして頂上で御来光を見るというふうになるんですが、その二泊三日のツアーというのは、昼から夕方ぐらいに五合目に来て、そして七合目辺りの小屋で一泊して、もう御来光の時間ぐらいまで寝てしまうんですね。それからまた頂上に向けて登り始めて、そして下山の時にもう一泊八合目なり、七合目なりの山小屋で泊まって下りるといった比較的にゆったりした行程です。そんなツアーを増やすことで、頂上の御来光の時間の渋滞を減らすということにも結び付いているんですけども。

〔知事〕

なるほど、しかし確かに宿泊しないで神風登山ですね。

〔参加者〕

何でも反対だということじゃありませんが、今のすごい渋滞は、東京を8時ぐらいに出て、そして五合目へ夜の10時ぐらいに来るツアーですね。それでさあ行ってきなさいという・・・。

〔知事〕

韓国のツアーもあるそうですね、そういうのが。何か仁川（インチョン）空港なんかを夕方出て、夜羽田に着いて、そのままバスで5合目まで来て、そしてまたバスに乗って帰って行く。だから日本に一泊もしないでそのまま帰っちゃうという（笑い）。この間言っていましたよ、韓国の方が。ものすごいことだよ。

〔参加者〕

夜行登山をする方にけが人が多いんですよ。八合目の救護所でお客さんと話をすると、一睡もしていませんとか、また、高山病になる人は、やっぱり一泊された方よりも仮眠を取らない人たちが多いというようなことですので、安全性の面からも、そういうツアー

ーが組めないものでしょうか。

そして一番怖いのは将棋倒し。富士山でそういうことが一回起きると、もう富士山登山が中止になるという怖さも。今のマスメディアは相当なことを書いてくれますからね。ただ一つそれが起こったことで、何年にもわたり影響を及ぼすわけです。

〔知事〕

なるほどね・・・せめて観光業者さんには、そういう無理なツアーは自粛してくれということをや請するというのをしなくてはいけないと思いますね。

〔参加者〕

ここ2年くらい外国人のツアーというのが、韓国もそうですけども、やはり日帰りというか、夜登って、そして帰るといのが多いんですよね。

〔参加者〕

マナーが悪くて、それが2年くらいずっと出ているんですよね。

〔参加者〕

八合目の救護所のほうも、夜中の2時前後が一番患者さんが多いんですよ。だからいかに日帰り登山が無理な事かわかると思います。

〔知事〕

まあこれはやっぱりそういう自粛要請をするしかないですね。

〔参加者〕

私からはリピーターに関しての話を・・・。

現在は、登山者が多いんですけども、もしこれから少なくなったらどうするかということを考えているんです。

今リピーター登山者が30%程度、それを1年、2年後には50%に何とか増やしていくためにはどうするかということも考えています。

去年ですけれども、県観光部の中村次長さんが良いことを言ってくれて、「今はお客さんも多いけれども、少なくなった時のことを考える」と、もう心に痛いようなことを言ったんですよね。そして我々も色々考えて、「じゃあそれはどうすればいいか」と言ったら、「あのね、子や孫の代まで続くような営業をしなければだめだよ」ということを言われました。これはすごくいい視点だなと思っています。

我々も安心・安全な山小屋づくりを孫の代までやりたいと思っていますので、何とか努力して、日本の富士山、世界の富士山に恥をかかせないような山小屋づくりをこれからもしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

〔知事〕

そうですね。なるほど、それは立派な姿勢だと思いますね、確かに。

何か儲けの面で、多少儲からないようなことがあっても、やっぱり長く続けることが大変大切ですよ。

何か一回、何か問題が起こったりするとマスコミに徹底的に叩かれて大変ですよ。そして、そういうイメージが定着しちゃって、いつまで経ってもそれが解消しない。

〔参加者〕

最後にいいですか。将来に続く富士山観光、また子や孫の代まで美しい富士山を残していくということが我々の使命だと思うし、今10日前後のマイカー規制とか、いろんなことを話をしました。

マイカー規制による宿泊客の減少などのリスクは私たちも覚悟しています。つい最近、鉄道構想が一部浮上してきたんですが、今私たちはこれ以上富士山をいじめないで、鉄道構想の前にまず世界遺産が先じゃないかということを考えているんです。その辺のところを知事さんにお聞きしたいのですが、どうでしょうか。

〔知事〕

そうですね。富士山の世界遺産登録は数年後に何としても実現したいということで、これは静岡県とも一緒になってがんばっていきたいと思っていますし、それは実現できるものだというふうに思っております。

鉄道の話は、これは長い視野で考えることであって、ここ1、2年とか、そんなところで結論を出してやるとか、やらんとかということではないんじゃないかなというふうに思うんですね。

まあ、いざこれをやるとなると、これは資金的な問題も、これは数百億円掛かる話ですし、それを県の税金でやるとなるとこれは大変なことになってしまいます。

まあそういうこともあったり、また色々富士山の保全上どうかという話もあったり、いろんな問題がありますからね、安全の問題もありますし。多方面で検討し、同時にやっぱり地域の皆さんが、何よりも地域の皆さんがいいじゃないかと、それでいこうやと、そのほうが富士山の将来にわたる環境保全のためにいいと、そういう判断になってくれるかどうかですよ。そういうコンセンサスづくりをしていくことが大事ですから、余り拙速して決めることじゃないと。

世界遺産の話は、これはもう急いでやっていきたい。ただまあ岩手県の平泉みたいに打ち出したはいいけれども登録延期ということもありますから、これはもう出した以上は必ずユネスコが認めるように、万全の体制を組んでやっていきたいというふうに思っていますけどね。

〔参加者〕

ありがとうございました。

〔司会〕

それでは大体意見が出たようですから、まとめとして知事さんお願いします。

〔知事〕

大変にいいお話を、貴重なお話を色々と聞かせていただきましてありがとうございました。実際富士山にかかわっておられる皆さんから直接お話を伺って、その問題の本質とか切実さとか、そういうものがよく分かったところです。

幾つか検討すべき点につきましては、我々も真剣に皆さんと一緒に検討していきたいというふうに思います。何よりも組合長さん、そして副組合長さんがおっしゃったように、子や孫の代にまで持続可能な、そして安心・安全な富士登山を実現して、皆さんに喜んでいただける、そういう富士山でありたいということをおっしゃいましたが、これは大変大事なことで、大変に立派な姿勢だというふうに思っております。是非そういう姿勢で、これからも県の行政にも協力をいただいたり、また色々と問題があればご叱正をいただきたいというふうに思っております。

今日は本当にありがとうございました。